



「もう、あとひといきだ。みんな、がんばれよ」

百羽ひゃっばのツルは、目めを、キロキロと光ひからせながら、つかれたはねに、  
ちからをこめて、しびれるほどつめたい、夜よるの空くう気をたたきました。  
それで、とびかたは、いままでよりも、すこしだけ、はやくになりました。  
もう、あとが、しれているからです。  
のこりのちからを、だしきって、  
ちょっとでもはやく、みずうみへつきたいのです。